

今、福島って

福島をまるごと紹介する レポートマンガ

どうなるのかな??

福島第一原子力発電所事故から7年。私たちの周りにも「福島県産」の果物やお米、野菜などがいぶん復活してきているのを感じます。でも、「この食べ物って本当に安全...?」今号から本誌では、「今の福島」の様子をしっかりとレポートしてまいります！

取材：マンガ/おぐらなおみ 文責/レタスクラブ編集部
取材協力/立命館大学衣笠総合研究機構構構教授 開沼博

ある日某スーパーにて
何買おうかなー
つうか今晩何作るー
やっぱりビールにしよう...

お母さん 買って帰るよ
お父さん 早く帰ってこいよ
お母さん ...
お父さん ...

結局戻した
虫もいたとか?
まあいいや買ってこいよ
帰宅後
えーなかなか難しい問題ではありますね

福島県産の作物ー
わたしはラジオ女子
ああそれで福島県産か
あの人は買わなかったのか
すこくわかりやすい本ありますよ
...と勧めてもらったのが
「はじめての福島学」(開沼博)
本當にわかりやすかった
今知りたいことがこのピンポイントで書かれている
放射能対策の電子書籍ご購入

でも福島県産だからあの人は買わなかったのかと想像できちゃう自分もどうかなくて...
KADOKAWA ほうほう 松田さん
福島のことちゃんとしてお聞きやってみたりして
「見」「知」りたいです!
福島の今を「見」「知」りたいです!
それをマンガにします!!
というわけで行ってみます

「じゃあ、今週末は福島第一原電敷地をのぞいてみるよ」
「おもしろいよ」
「ん、ん、ん...」
「ん、ん、ん...」
「ん、ん、ん...」

開沼 博 (かいぬま ひろし)
1984年福島県いわき市出身。東京大学文学部卒。同大学院学際情報学府博士課程単位取得退学。専攻は社会学。著書に『福島第一原発廃炉図鑑』(太田出版、編著)、『はじめての福島学』(イースト・プレス)、『潔白される社会』(ダイヤモンド社)、『フクシマの正義「日本の変わらなさ」との闘い」(幻冬舎)など。最新刊は、『社会が潔白され尽くす前に：開沼博対談集』(徳間書店)。

「チェルノブイリ事故から学び、研究された他の方法もあるのです」
「えっ、その方法のひとりでして」
「カリウムを撒く」というものがある
「他、方法のひとつとして」
「カリウムを撒く」というものがある
「カリウムを撒く」というものがある

福島の農地で「安全で安心な作物」って具体的にどうやって作るんだろう
「これは...」
「難しいぞ、だよ」

土をばき取って除染してから農業再開かなあ...というイメージが大きかったのですが
「この2つ、実は性質がよく似ているのです」
「カリウム (肥料。自然界にも存在)」「セシウム (放射性物質のひとつ)」
「栄養があるぞ! 吸っちゃえー」
「こっちは栄養を吸いたいわ!」
「やっぱカリウムがいいな!」
「適量のカリウムを撒くことでセシウム対策をしつつおいしい作物を育てることが出来ます」
「さらに出荷前に検査もするので安全な作物が流通しています」

「どうして私たちはまだ、福島県産の作物は「怖い」「不安」だと思ってしまうのでしょうか?」
福島県産の作物に絶対の拒否感を持っている人は、調査によれば2割程度です。
「あのような事故を目の当たりにしたら、どうしても生理的な拒否感があるのはしょうがない。逆をいえば、8割の方々は以前よりも不安が和らいできているんです。その8割の方に、現在の作物の放射能の濃度や農法などを知ってもらって、少しずつ不安が払拭されていければと思います」

開沼先生に聞きました。
先生の御本にありましたが、私自身「フワッとした不安系」だと思っただけで、解消できますか?
「食べることに抵抗はないが、漠然とした不安はある」
「福島の今を「見」「知」りたいです!」
「それをマンガにします!!」
「福島の今を「見」「知」りたいです!」
「それをマンガにします!!」

「それはやはり福島に足を運んで「現状を見て知る」ことだと思えますね」
「現状を見ること...」
「現状を見ること...」

おぐらなおみ
群馬県出身。マンガ家&イラストレーター。著書に『こんな息子に母がした』『育児パビデプー』(辰巳出版)、『働きまん1年生』『新 働きまん 谷のぞみ (32) ワーママデビューします!』(小学社刊)。最新刊は、『母娘問題 オトナの親子』(中央公論新社)。

福島県産のお米4銘柄が最上級評価!

東日本大震災による原子力発電所事故で一時は危機的状況だった福島県産米。その後、農家の方のさまざまな努力によって安全なお米が収穫できるようになり、その収穫量も増えてきました。が、なかなか戻らないのが値段。せっかく作っても安値で取り引きされたり、家畜の飼料になるものも多く、農家さんからは悲鳴が上がっています。最上級評価「特A」を受けても値段が戻らないのが今の福島県産米の問題なのです。

福島県産品が抽選で20名様に当たるWebアンケート実施中